

**これまでのワークショップ及び地域報告会での主な意見
(第8回ワークショップ資料)**

西南小校区

◆第7回ワークショップまでの主な意見

- ・丁目で校区をわけることでわかりやすくなり、変更案は妥当だと思う。
- ・現在いびつな線引きになっている経緯がわかればなおよい。
- ・新校区のかたが現校区と間違われないようにしっかりとした周知が必要。
- ・経過措置期間をどれくらいとるのが難しい問題。できるだけ校区変更の影響を受けるかたの希望に添うようなかたちにしてほしい。
- ・現校区でも、見直し案での校区でも、自治会が校区をまたがっているので、この際整理してみてもいいと思う。
- ・避難所として南小の方が近い地域がでてくる。最適な避難ルートなどを考える必要がある。

◆地域報告会や地域報告会後のアンケートでの主な意見

- ・子どものことを考えると納得できる変更案。一方で、高齢者の見守りという面においては、校区変更によって、民生委員が担当する見守り対象者数のバランスを再検討してなくてはならないし、丁寧な引継ぎが必要である。
- ・半町2丁目の校区変更部分については、西南小学校まで線路を横断する通学路になる。距離も南小に行くよりも遠くなる。
- ・自治会が校区をまたがると、避難所が別々になってしまう。

南小校区

◆第7回ワークショップまでの主な意見

- ・西南小校区、箕面小校区との境界を町丁目で再整理する案
- ・多少の校区変更は致し方ないことは理解している。ただ、住民に丁寧な説明が必要。また、校区が変更となる一部の地域の住民に対して、旧の校区に通える制度をどれだけ充実させるかが重要であるが、いつかはきっちり線引きをしなければいけない。制度の柔軟さについては要検討だと思う。
- ・箕面小校区との境界については、中学校区が変更になること、南小との距離が近いことから、「学校敷地面積/校区面積」の値の変動が軽微であれば、変更しなくてもよいのではないかとの意見もあり。

◆地域報告会や地域報告会後のアンケートでの主な意見

- ・箕面小校区との境界については、中学校区が変更になること、南小との距離が近いこと、通学に牧落駅前の信号を渡る必要があることから、変更しなくてもよいのではないか。また、西南小校区との境界（半町2丁目）についても、南小の方が通学距離が近いこと、通学に踏み切りを渡る必要があることから、変更しなくてもよいのではないかと思う。
- ・中学校区の変更は慎重に考えるべきであろうが、桜地域全体で見れば、現在は南小、箕面小、西小の3小学校にまたがっているところが、箕面小・西小（一中校区）にまとまる。

箕面小（・西小校区）

◆第7回ワークショップまでの主な意見

- ・箕面小校区については、地域の活動のことを考えると、現状維持（校区変更しない）が良いが、校区を狭めなければいけないとしたら、致し方ない。
- ・箕面小から西小校区への変更箇所については、踏切を横断しての通学になるので、なんとかハード面での安全対策ができないか。
- ・昔から住んでいるかたと、新たに転入してきたかたとでは校区変更に対する捉え方は異なるだろうが、いずれにしても変化に対する感情をどう受け止めるかが今後の課題。丁寧な周知と十分な経過措置が必要。

◆地域報告会や地域報告会後のアンケートでの主な意見

- ・西小路は昔から住んでいる人も多くいるので、箕面小のままにしてほしい。
- ・踏切を横断することについて。登校・下校時は見守りもできるが、休日に友達の家に行く機会が増えるなど、必ずしも大人が見てあげられることばかりではないので心配はある。
- ・安全面、子どものつながり、地域のつながりを考えて校区を考えてほしい
- ・地域の活動についても、校区変更に伴い、先のことを考えて協力していかないといけないと思った。
- ・箕面小から西小が変更になる箇所について、いずれにしても一中校区なのでよかった。
- ・中央線を渡って箕面小に通うのも、線路を横断して西小に通うのも、危険性は同程度ではないか。校区変更に賛成。
- ・見直し案の方が自治会活動がしやすい。校区変更に賛成。

北小校区（・西小校区）

◆第7回ワークショップまでの主な意見

- ・滝道を挟んで東西に校区が分かれているのはよくない。同じ校区の方がいい。
- ・納涼祭り、天狗祭りなどは、北小学校区にとって思い入れがある。北小校区の西側が北小校区でなくなってしまうことに対しては反対である。

◆地域報告会や地域報告会後のアンケートでの主な意見

- ・みのおサンプラザ内に、地区福祉会の活動拠点がある。みのおサンプラザが西小校区になった場合でも、継続して使えるようにするなど、活動拠点の確保に努めてもらいたい
- ・北小校区を狭めることで、児童数が減ってしまうのが心配

萱野小・萱野北・萱野東小校区

◆第7回ワークショップまでの主な意見

- ・萱野小と新設校との境界は、千里川が地形的にも妥当
- ・萱野東小校区のうち、船場東1～3丁目すべてを新設小校区にするのが妥当。
- ・坊島5丁目については、萱野小よりも萱野北小の方がより近い。バス通りを横断するより、山麓線を横断する方が（歩道橋もあり）安全性が高まることから、校区変更してはどうか。
- ・白島2～3丁目の一部について、萱野東小よりも萱野北小の方がより近く、さらに山麓線を横断せずすむため、校区変更してはどうか。

◆地域報告会や地域報告会後のアンケートでの主な意見

- ・坊島5丁目と坊島3・4丁目とが分かると、坊島自治会が分断される。距離が近いというだけで、坊島5丁目と萱野北小学校に変更になったのが納得できない。萱野北小学校ができたときに、坊島5丁目と萱野北小校区にする案があったが、同様の理由で反対した。
- ・萱野北小学校は避難所になっていない。土砂災害の危険があるのではないかと。また、避難所が第二中学校になってしまうので、遠くなる。
- ・白島2～3丁目の校区変更について、子どもたちにとっては通学の利便性は向上すると思われるが、白島自治会も校区が分かれてしまう。
- ・自治会が分かれることの大変さは理解するが、校区については通学する子ども第一で考えてほしい。
- ・子どもの安全を考えての校区変更なら賛成。
- ・変化するときには、何事においても乗り越えるべきことがある。

◆意見に対する市からの補足

- ・坊島5丁目の児童は、バス通りを横断せず、423号線歩道まで出て、遠回りして萱野小学校に通っています。バス通りを横断するための信号は整備済であるが、大阪北部地震後のブロック塀倒壊の危険箇所を避ける意味もあり、現在の通学路になっています。
- ・萱野北小学校を含む周辺のエリアについては、平成3年度の大阪府の調査によって、地形の形状により土石流氾濫想定区域に指定されましたが、市としては、当初土石流を防ぐ「砂防堰堤」が設置されていることなど、地形以外の要素を総合的に判断して、避難所として使用していた経緯があります。しかしながら、平成23年3月の東日本大震災などの「想定外の災害」を目の当たりにして、「想定外を想定した防災対策」が必要と判断し、土石流氾

濫想定区域にある施設を避難所に使用しないことを決め、「想定外の災害からも命を守るため」萱野北小学校が避難所ではなくなりました。

現在、萱野北小学校は、土砂災害警戒区域内（イエローゾーン）に位置しています。土砂災害特別警戒区域内（レッドゾーン）や、市がイエローゾーンの危険性を精査し新たに設定した「ハイリスクエリア」内の平屋建ての建物では、家屋の倒壊や1階窓から土砂が流れ込む危険性があります。それに対して萱野北小学校が位置するイエローゾーンは、床下（50cm）まで土砂が流れてくる可能性があります。「2階に避難すること」で十分に危険を回避できます。萱野北小学校は、多くの人が発災時に移動して集まる避難所としては適当でないと判断していますが、屋内では十分に安全確保できる場所です。

基本的に、暴風雨や長雨など、土砂災害が警戒されるときには、事前に休校措置を講じることから、児童は自宅等で避難行動をとっていると想定されますが、万が一、在校時に発災した場合でも、屋内への避難、場合によっては2階以上への垂直避難を実施し、安全確保に努めるとともに、このような状況を想定した避難訓練も継続していきます。

中小校区

- ◆第7回ワークショップまでの経過と主な意見
 - ・新設校との境界は千里川とするのが妥当
 - ・坊島1丁目を萱野小校区から中小校区にする案があったが、中小校区に変更すると五中まで通うことになり、遠くなるため、萱野小のままでよいと思う。
- ◆地域報告会や地域報告会後のアンケートでの主な意見
 - ・稲自治会が中小校区と新設小校区に分かれてしまう。個別に説明会をしてほしい。

東小校区

- ◆第7回ワークショップまでの主な意見
 - ・東小校区を狭める案としては2案あり、ひとつは箕面東コーポラスも校区変更する案、もうひとつは東分署周辺だけを校区変更する案で、帝釈寺周辺の地域のまともりは東小に残すよう配慮した案。
 - ・校区を狭めなければならないとしても、その影響ができるだけ小さくなるよう、2案のうち後者を前提として検討を進めたが、現状から校区を変えたくないという意見もあった。
- ◆地域報告会や地域報告会後のアンケートでの主な意見
 - ・現見直し案では、萱野東小への通学路と、東小への通学路が交錯する
 - ・現見直し案によって東小から切り取られるエリアの生活圏（買い物や友達と待ち合わせしたりする場所）は東小校区側にあるので、校区変更には反対
 - ・反対意見への対案が具体的ではなかった。ワークショップへの理解が少ないのでは。

豊川北・豊川南小校区

◆第7回ワークショップまでの経過と主な意見

- ・豊川北小校区は、「学校敷地面積/校区面積」から考えると大きく見直す必要がないことから、校区変更なしとした。
- ・豊川南小校区は、住宅地を分断したくないとの意見から、箕面墓地公園等、なるべく住宅地を含まないエリアのみ変更する案を事務局から提示。
- ・また、中学校区に関しては、自転車通学を解消するため、進学先を第四中学校から第六中学校に変更する考えを事務局から説明。
- ・小学校区の変更案については、特に問題ないとの意見。
- ・中学校の組み合わせの変更については「自転車通学が解消されるとのことで、よかった」との意見。

◆地域報告会や地域報告会後のアンケートでの主な意見

- ・第六中学校は、豊川南小学校の児童を受け入れるだけのキャパシティがあるのか？（→推計上は受け入れ可能と事務局から回答）
- ・豊川南小学校は、東小より東にあるので、第六中学校への変更は賛成。